

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 28 年 8 月 29 日

施策	1 5 高齢者がいつまでも元気で暮らせる環境づくり		
施策 主管課	長寿介護課	氏名	赤尾 好彦
施策 関係課	福祉総務課、芦川支所地域住民課		

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ◇市民(65歳以上) ◇介護予防事業に参加した者 ◇介護認定を受けている者	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位) a 高齢者数(1号被保険者数) 人 b 介護予防事業参加者 人 c 介護保険1号認定者 人
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇(高齢者が)介護予防に取り組むようになる。 ◇(高齢者が)健康を維持する。 ◇(高齢者が)健康で充実した生活を送る。 ◇(介護認定者が)満足できる介護サービスを利用できるようにする。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位) d 健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合 % e 健康な高齢者の割合 % f 健康で充実した生活を送っている高齢者の割合 % g 1号介護サービス利用率 % h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇高齢者が健康な生活を送るため、健康のために続けていること(介護予防)があるかどうか、健康で充実した生活を送っているかどうかを、高齢者に聞く。 ◇健康な高齢者の割合:65歳以上の市民に占める介護保険未認定者の割合で把握する。⇒1-(介護保険1号認定者/1号被保険者数) ◇介護サービスの利用により満足なサービスを受けているか、単に認定取得のみか利用率から把握する。1号介護サービス利用率=介護サービス1号受給者数/介護保険1号認定者数	⑥ 成果指標の取得方法 ◇まちづくり基礎調査設問「あなたは、現在、健康のために続けていることがありますか。(例:健康診断の受診、食生活の改善、運動の継続、健康づくりサークルへの参加など)」「あなたは、現在、健康で充実した生活を送っていますか。」(平成26年度については、「元気度チェック笛吹」調査による把握) ◇健康な高齢者の割合、介護サービス利用率は、介護保険課で把握。

			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
			実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、見込み	最終目標		
対象 指標	a 高齢者数(1号被保険者数)	人	見込み値	16,923	17,741	18,343	18,912	19,376	19,752	19,980	
		実績値	17,399	18,042	18,514	19,066	19,494				
	b 介護予防事業参加者	人	見込み値	17,300	17,400	18,000	18,100	18,200	18,300	18,400	
		実績値	18,597	23,049	18,712	18,736	18,410				
	c 介護保険1号認定者	人	見込み値	2,540	2,602	2,850	2,909	2,970	3,030	3,095	
		実績値	2,659	2,755	2,847	3,045	3,132				
成果 指標	d 健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合	%	成り行き値	71.0	71.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	
		目標値	75.5	77.0	73.0	73.5	74.0	74.5	75.0		
		実績値	72.7	71.0	71.0	(69.0)	-				
	e 健康な高齢者の割合	%	成り行き値	85.0	85.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	
		目標値	88	88.5	88.5	88.5	88.6	88.6	88.6		
		実績値	84.7%	84.7%	84.6%	84.0%	83.9%	#DIV/0!	#DIV/0!		
	f 健康で充実した生活を送っている高齢者の割合	%	成り行き値	69.5	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	
		目標値	72.0	72.0	72.1	72.2	72.3	72.4	72.5		
		実績値	70.3	65.5	74.1	(79.9)	-				
	g 1号介護サービス利用率	%	成り行き値	84.0	84.5	85.0	85.0	85.5	85.5	86.0	
		目標値	84.5	85.0	85.5	86.0	86.5	87.0	87.5		
		実績値	84.8	85.4	88.1	86.6%	88.3%	#DIV/0!	#DIV/0!		
h	%	成り行き値									
	目標値										
	実績値										
施策コスト	事務事業数		本			49	48	46			
	施策に係る事務事業の コストの合計 (評価外を含み、繰越分を除く)	事業費 (A)		千円	6,018,942	6,214,257	6,393,646	6,940,710	6,049,704		
		うち一般財源 (A')		千円	1,878,773	2,018,525	2,022,543	2,161,867	1,559,465		
		人件費 (B)		千円	166,188	146,248	140,985	145,356	154,928		
		トータルコスト (A+B) (C)		千円	6,185,130	6,360,505	6,534,631	7,086,066	6,204,632		
うち一財 (A'+B) (C')		千円	2,044,961	2,164,773	2,163,528	2,307,223	1,714,393				

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

●後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。  
 ◇健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合:成り行き値は、過去の平均値から72.0%と設定。目標値はH23年度実績値を踏まえ、H25年度より毎年0.5ポイント増と設定。  
 ◇健康な高齢者の割合:成り行き値は、H22年度実績を据え置き。目標値は、前期計画最終年度(H24年度)目標値88.5%をH25・26年度は据え置き、H27年度から毎年0.1ポイント増で設定。  
 ◇健康で充実した生活を送っている高齢者の割合:成り行き値は、H23年度実績を基に70%程度で推移すると設定。目標値は、前期計画最終年度(H24年度)目標値72.0%を基とし、介護予防事業を進めることで、毎年0.1ポイント増と設定した。  
 ◇介護サービス利用率:成り行き値は、H23年度実績を基に微増と設定。目標値は、H25年度を85.5%と設定し、毎年0.5ポイント増と設定した。

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇市民は、健康づくりに取り組む(ウォーキング等)。健康づくり教室に参加する。健康診断を受ける。介護予防事業に参加する。 ◇事業所は、高齢者に対して介護予防・介護サービスを提供する。 ◇地域は、高齢者の見守りや社会参加に取り組む。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇市は、健康づくり事業、健康診断、介護予防事業を実施する。 ◇市は、利用者のニーズに合った、介護サービスの提供を確保する。 ◇市は、高齢者の活躍する場の支援を行う。
---	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇各種高齢者データの5年間(H23.4.1→H28.4.1)の推移  
 ①高齢化率:23.6%→27.8%、②後期高齢者率:12.2%→13.7%、  
 ③在宅独居高齢者:14.1%→20.9% ④認知症高齢者:10.4%→11.6%  
 ◇要介護認定者の推移:H23年度末2,659人→H27年度末3,132人  
 ◇介護保険法一部改正(H27年度)  
 ①介護予防(訪問・通所)介護が、市の事務(地域支援事業)に移行。  
 ②「在宅医療と介護連携」「認知症施策」等が市の事務に位置付け。  
 ③定員18人以下の通所介護が市の地域密着型サービスへ移行。  
 ④介護老人福祉施設(特養)等の入所要件が要介護3以上に限定。  
 ◇H23～H27年度に、小規模特養が4箇所、グループホームが1箇所開設。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇市民から、「高齢者が集まる場がほしい」「高齢者が働く場がほしい」という要望がある。  
 ◇住民から特別養護老人ホームへの入所待機者が多いという声がある。  
 ◇介護老人福祉施設(特養)の一部の利用者(高所得者)から、制度改正により世帯員の所得が合算され、居住費と食費の軽減が適用外となり、毎月の負担が高額になったという声が寄せられている。

2. H27年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇健康な高齢者の割合は、目標値の88.6%に対して実績値83.9%であった。          ◇介護サービス利用率は、目標値86.5%に対して実績値88.3%と高い値であった。          ◇H27年度にまちづくり基礎調査を実施しなかったため、「健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合及び「健康で充実した生活を送っている高齢者の割合」については目標達成度評価の把握不能。          ※後期高齢者の増加及び介護保険制度の周知により、介護が必要な高齢者(介護保険認定者)が増え、目標値に比べて健康な高齢者の割合が低下したと考えられる。          一方、介護サービス提供事業所の増加及び介護サービスの充実等により、目標値に比べて、介護保険認定者が満足できる介護サービスを利用できるようになったと考えられる。</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇健康な高齢者の割合は、H25年度84.6%、H26年度84.0%、H27年度83.9%と減少している。後期高齢者が増えたことにより、介護の必要性が高まったと考えられる。          ◇介護サービス利用率は、H25年度88.1%、H26年度86.6%、H27年度88.3%と増加している。介護サービス提供事業所の増加等、介護サービスが充実したためと考えられる。          ◇H27年度にまちづくり基礎調査を実施しなかったため、「健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合及び「健康で充実した生活を送っている高齢者の割合」については時系列比較評価の把握不能。</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 他自治体と比べてほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり低い成果水準である</p> <p>自治体名⇒ 南アルプス市、山梨市、甲州市</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇健康な高齢者の割合は、笛吹市83.9%、南ア市84.7%、山梨市82.6%、甲州市83.8%となっている。          ※H27年度の高齢化率は、笛吹市27.8%、南ア市25.0%、山梨市31.0%、甲州市32.6%となっている。          ◇一号介護利用率は、笛吹市88.3%(他市については現時点において未確定)          ※介護認定率は、笛吹市15.4%、南ア市15.6%、山梨市16.0%、甲州市16.5%となっている。介護認定率は、4市の中で笛吹市が最も低く、健康な高齢者の割合が高いと考えられる。          ※H26年度に、笛吹市内に認知症対応型共同生活介護施設1箇所、小規模多機能型居宅介護施設1箇所が開所しており、介護サービスが充実しつつある。          ◇健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合、健康で充実した生活を送っている高齢者の割合は、近隣市において毎年同様のアンケートを実施していないため比較が困難となっている。</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒	(単位)	25年度	26年度	27年度	効率性評価
65歳以上の市民					
*対象指標実績値 (D)	(1枚目 a)	人	18,514	19,066	19,494
*対象1単位当たり事業費	(1枚目 A/D)	円	345,341	364,036	310,337
*対象1単位当たり人件費	(1枚目 B/D)	円	7,615	7,624	7,947
*対象1単位当たりトータルコスト	(1枚目 C/D)	円	352,956	371,660	318,284

◇平成27年度は、老人保護措置事業及び施設サービス給付事業等が減となったが、居宅サービス給付事業及び地域密着型介護サービス給付事業の増により、事業費はやや増加している。  
 ◇人件費率H26年度2.05%に対して、H27年度2.50%から効率は低下している。

(3)施策の現状と課題の総括

◇笛吹市の高齢化率(H27年度末、高齢者福祉基礎調査)は27.8%で、山梨県全体28.2%と比べ下回っている。  
 ◇高齢化や核家族化が進み高齢者のみの世帯が増えていることで、高齢者が高齢者を介護する「老老介護」が課題となっている。  
 ◇高齢者が、地域で活躍したり、生きがいを持って暮らせる社会をつくっていく必要がある。  
 ⇒高齢者の引きこもりをなくしたり、運動機能を向上する介護予防事業に取り組む。(通所型介護予防事業)  
 ⇒特定高齢者の状況を把握し、介護予防事業に参加してもらう。(二次予防事業対象者の把握事業)  
 ⇒一般高齢者に対しては、早いうちから「やってみるじゃん」などの介護予防事業への参加を促す。(地域介護予防活動支援事業)  
 ◇今後は、高齢者の在宅生活を支えるために、医療・介護・福祉などにおいて地域の持つ力を連携させ、在宅で医療が受けられ、介護が必要になっても在宅で生活が継続できる仕組みの確立を目指し、生きがいづくりから介護予防まで元気に過ごせる体制整備を進める必要がある。  
 ◇在宅医療・介護の連携を進めるうえで、医療機関と介護事業者との情報共有が課題となっている。

3.後期基本計画の取り組み方針(29年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇医療・介護・福祉などにおいて地域の持つ力を連携させ、在宅で医療が受けられ、介護が必要になっても在宅で生活が継続できる仕組みの確立を目指し、生きがいづくりから介護予防まで元気に過ごせる体制整備を進める。  
 ◇高齢者が、地域で活躍したり、生きがいを持って暮らせる社会をつくっていくため、引き続き介護予防事業に取り組む。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇今後多くなる高齢者の在宅生活を支えるために、医療・介護・福祉などにおいて地域の持つ力を連携させ、医療や介護が必要になっても在宅生活が継続できる仕組みの確立を目指し、地域包括ケアシステムの構築を進めます。